

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 田原小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 39人

② 算数 39人

5 留意事項

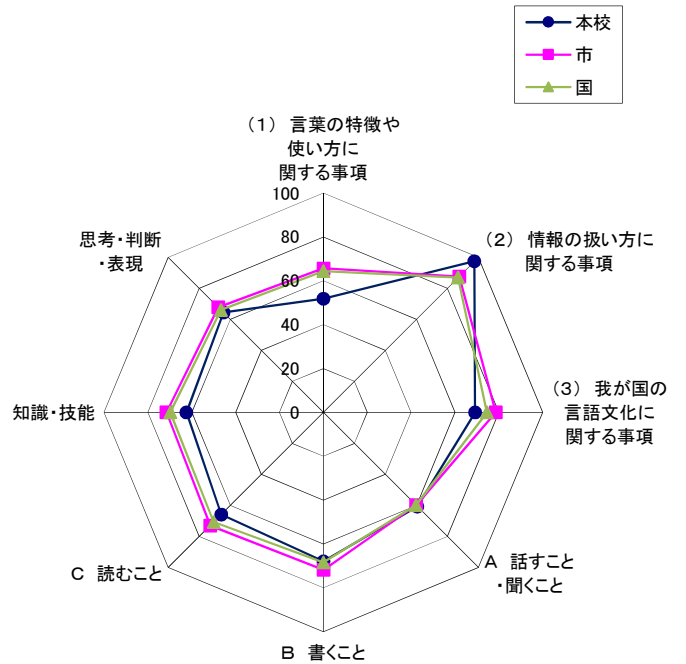
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立田原小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	51.9	65.7	64.4
	(2) 情報の扱い方にに関する事項	97.4	87.6	86.9
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	69.2	78.6	74.6
	A 話すこと・聞くこと	60.7	59.9	59.8
	B 書くこと	67.9	71.8	68.4
	C 読むこと	65.8	72.9	70.7
観点	知識・技能	62.4	71.5	69.8
	思考・判断・表現	64.4	67.8	66.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

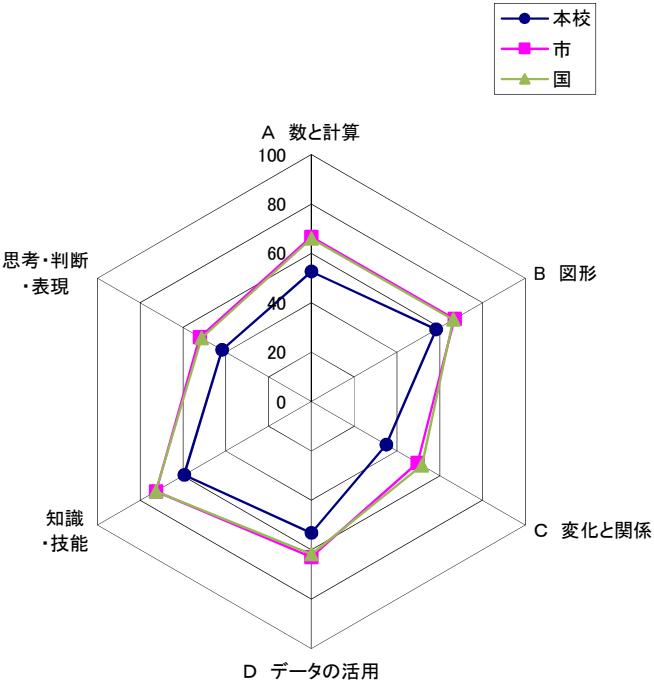
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、全国平均よりも低い。 ○文の中における主語と述語との関係を捉えることができるかどうかを見る設問の正答率が高い。 ●学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う設問の正答率が低い。	・漢字の定着に向けた指導を継続する。漢字指導においては、熟語調べなどに関連させて指導を行う。
(2) 情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、全国平均よりも高い。 ○資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかを見る設問の正答率が高い。	・話し合いや発表会の中で、自分の考えが聞き手に正しく伝わるように資料等を使って発表するなど、表現を工夫して取り組めるよう継続して指導を行う。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、全国平均よりも低い。 ●日常的に読書に親しむとともに、読書が自分の考えを広げるために役立つことに気付けるかどうかを見る設問の正答率が低い。	・読書活動をするにあたり、感じたことや新たに知ったことを記録する活動の充実を図り、継続して行えるよう支援する。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は、全国平均よりも高い。 ○目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかを見る設問の正答率が高い。 ●目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる設問の正答率が低い。	・話の内容が明確になるように、スピーチメモを作ったり、目的に応じて資料を使ったりする活動を今後も継続して行っていく。 ・話し合う場の設定だけでなく、教師や友達の発表、教材文等を「聞く」活動を繰り返し設定するなど、聞き方のポイントを明確にしながら指導を行っていく。
B 書くこと	平均正答率は、全国平均よりもやや低い。 ○目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができるかどうかを見る設問の正答率が高い。 ●目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる設問の正答率が低い。	・教材文の中の事実と感想を区別させたり、筆者の意図を読み取らせたりする活動を丁寧に行うとともに、文章を書く際には、意図や目的を明確にさせ、相手を意識させながら書くように指導していく。 ・学年の発達段階に応じて、学習のまとめ、振り返りを記述する取組を継続して行い、自分の考えをまとめ、書くことの習慣化を図っていく。
C 読むこと	平均正答率は、全国平均よりも低い。 ○登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができるかどうかを見る設問の正答率は、平均的だった。 ●人物像を具体的に想像したり、物語の全体像を捉えたり、表現の効果を考えたりする設問の正答率が低い。	・語彙の獲得のために、朝の学習の時間で語彙の拡充ができるような問題を扱ったり、週に2回ある「朝の読書タイム」で学年の実態に応じた図書を読むことができるよう指導する。 ・授業において、部分と全体を結び付けて考えることのできるような発問や、表現の効果を問う発問を行う。また、問いに対してみんなで考えて意見を交流する場を大切にして、全体で読む力を伸ばしていく指導を行う。

宇都宮市立田原小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	52.6	66.7	66.0
	B 図形	58.3	66.9	66.3
	C 測定			
	C 変化と関係	35.0	49.6	51.7
	D データの活用	53.2	62.9	61.8
観点	知識・技能	59.5	72.6	72.8
	思考・判断・表現	41.8	52.2	51.4
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は、全国平均と比べて低い。 ●数量の関係を、問題場面を考えて口を用いた式に表す設問の正答率がやや低い。 ●除数が1／10になったときの商の大きさについて正しいものを選ぶ設問の正答率が低い。	・今後も、朝の基礎学習の時間や家庭学習で繰り返し計算練習を行い、基本的な計算力の定着に向けた指導を行う。 ・計算だけでなく、言葉と数を使って記述する応用的な課題に取り組み、数量の関係について論理的に考察したことを数直線や図などを利用して説明する力を養っていく。
B 図形	平均正答率は、全国平均と比べて低い。 ●作成途中の直方体の見取図について辺として正しいものを選ぶ設問の正答率が低い。 ●角柱の面の数について、五角柱の面がいくつあるのか「底面」と「側面」の2つの言葉と数を使って説明する問題の正解率が低い。	・実際に図形を作図したり具体物を操作する活動を取り入れ、図形について理解できるようにする。 ・図形の構成の仕方を基に、図形の意味や性質について考えることができるようにしていく。
C 変化と関係	平均正答率は、全国平均と比べて低い。 ●速さの意味について理解しているかどうかを見る設問の正答率が低い。 ●速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できるかを見る設問の正答率が低い。	・単位量あたりの大きさ、特に速さについての復習問題と応用問題に取り組む時間を作り、速さの理解を深めるようにする。 ・速さの意味に基づいて、求めた速さなどを図に表して問題場面と比べ、求めた大きさが妥当かどうかを判断していく。 ・速さが一定である場合、道のりと時間の関係が比例の関係になっていることを指導していく。 ・速さ、時間、道のりの公式を再度確認していく。
D データの活用	平均正答率が、市の平均よりも低い。 ○ドットプロットから、最頻値と中央値を読み取る問題は、市の平均より高い。 ●度数分布表を完成させる問題や表から平均を求める問題は、市の平均より低い。	・計算ドリル、個人用端末などを活用し、基本的な計算の定着に向けた指導を今後とも継続していく。 ・該当学年のみならず前学年の計算ドリルを使って練習問題に挑戦させたり、個人用端末などを活用させたりしていく。 ・グラフを正しく読み取り、変化の様子を説明できるよう指導していく。

宇都宮市立田原小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分にはよい所がありますか」の肯定割合は94.8%であり、全国平均を10.7ポイント上回っている。今後も児童の自己肯定感を高めていけるよう、よい所をほめて伸ばしていく。

○ICT機器を学習の中で活用している(画像や動画を活用する、友達と考えを共有する、協力しながら学習する等)と回答した児童が全国平均を全体的に上回っており、ICT機器を活用することにより児童の学びが深まっていると思われる。今後も授業の中で積極的に活用を図っていく。

○「学級活動における話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」の肯定割合は97.4%であり、全国平均を14.9ポイント上回っている。今後も学級活動の時間などを通して、集団の中で自分を高めていこうとする気持ちを育てていく。

○「人が困っているときは、進んで助けていますか」の肯定割合は97.4%であり、全国平均を4.7ポイント上回っている。今後も道徳の授業などを通して、思いやりのある児童の育成を図っていく。

●「算数の勉強は好きですか」の肯定割合は46.1%であり、全国平均を14.9ポイント下回っている。しかし、算数の勉強は大切だと考えている児童は97.4%と多い。今後の授業においてより丁寧に指導し、スモールステップを意識して、児童が「分かった。できた。」が実感できる授業を展開していく。

宇都宮市立田原小学校 (第6学年) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	<ul style="list-style-type: none"> 教材や言語活動を充実させた授業展開の工夫をし、主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善を行う。 児童相互の学び合いの場で、自分の意見を話したり、友達の考えを聞いたりする活動を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 重点的な取組に関わる設問20、28-6、28-7、30のいずれの項目において、県や全国の平均を上回った。日々の授業の積み重ねが、児童の深い学びに繋がるため、今後も教材や言語活動を充実させた授業改善を行ったり、児童相互が学び合う中で、自他の成長を感じることができるようにしていく。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
設問43、50の「国語や算数が好きか」を問う設問において、県や全国と比べると、好きではないと答える児童が多かった。	<ul style="list-style-type: none"> 教科の魅力を感じられる単元構想・授業展開の工夫 学びの手応えを実感したり、思考の変化を自覚したりできる振り返りの充実 	<ul style="list-style-type: none"> 国語科においては、言語活動を充実させ、学びの実感・成長を感じられる単元構想・授業展開に努める。 算数科においては、知的好奇心をくすぐる教材・発問を行い、「おもしろそう」「できそう」「やってみよう」と思える授業展開の工夫に努める。 児童が、学びの手応えを実感したり、自己の学びの変容や成長を自覚したりすることができる振り返りを行う。